

名取川・阿武隈川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会
拡大圏域の検討フロー(案)

資料3-1

平成28年8月
「名取川・阿武隈川下流の減災に係る取組方針」策定

平成29年1月
「中小河川等における水防災意識社会の再構築のあり方について」答申
都道府県管理河川においても、減災対策協議会を拡大

平成29年3月 減災対策協議会 第3回幹事会
追加市町の担当者も出席し、今後の方針等を確認

平成29年4月 現状や取組状況のアンケート実施【追加市町】
追加市町の現状や課題を整理
(地形的な特徴による相違はあるものの、概ね同様の課題を抱えている)

別紙1

平成29年6月 第3回減災対策協議会
協議会規約の改定【6市町の追加等】
「名取川・阿武隈川下流等の減災に係る取組方針」の修正方針

資料3-2

資料4-1

今 後 「名取川・阿武隈川下流等の減災に係る取組方針」の修正・校正
・個別による取り組み【単独】
・連携による取り組み【関係機関連携】
・プロジェクトチームによる取り組み【隣接市町間で調整】
⇒取り組みの必要性の検討を行う

第4回幹事会での調整 ※必要に応じて複数会開催

平成29年12月予定 第4回 減災対策協議会
追加市町取組等を定め、「取組方針」の改定

減災に対する取り組みを進め、
随時フローアップ

追加市町現在状況と
名取川・阿武隈川下流の減災に係る取組方針（H28.8.9）について

1. 追加市町の現状や取組状況のアンケート実施状況

「水防災意識社会再構築ビジョン」の取組を県管理河川へ拡大するにあたり、追加市町の現在の状況等を把握し課題等を抽出するため、平成29年4月末にアンケートを実施

○主な現状や課題

・白石市

白石川の水位等により避難勧告等の基準を設定
洪水ハザードマップを作成済。想定最大規模浸水想定区域図提供後作成予定
隣接市町と連携した広域避難等を今後検討

・蔵王町

白石川の水位等により避難勧告等の基準を作成。指定河川以外が課題
白石川の洪水ハザードマップを作成済。想定最大規模浸水想定区域図提供後作成予定
広域避難や実践的な避難訓練、水防体制の強化等について今後検討

・セヶ宿町

防災マップを作成済み（土砂災害危険区域）
氾濫区域がないため、水防災に関する取組は少ない

・大河原町

白石川の水位等により避難勧告等の基準を作成。夜間の判断基準が課題
白石川・荒川の洪水ハザードマップ作成。想定最大規模浸水想定区域図提供後作成予定
隣接市町と連携した広域避難等を今後検討

・村田町

荒川水位等により避難勧告基準等を作成。夜間の判断基準が課題
荒川・新川の洪水ハザードマップ作成。想定最大規模浸水想定区域図提供後作成予定
実践的な避難訓練は実施済みで、水防体制の強化については今後検討

・川崎町

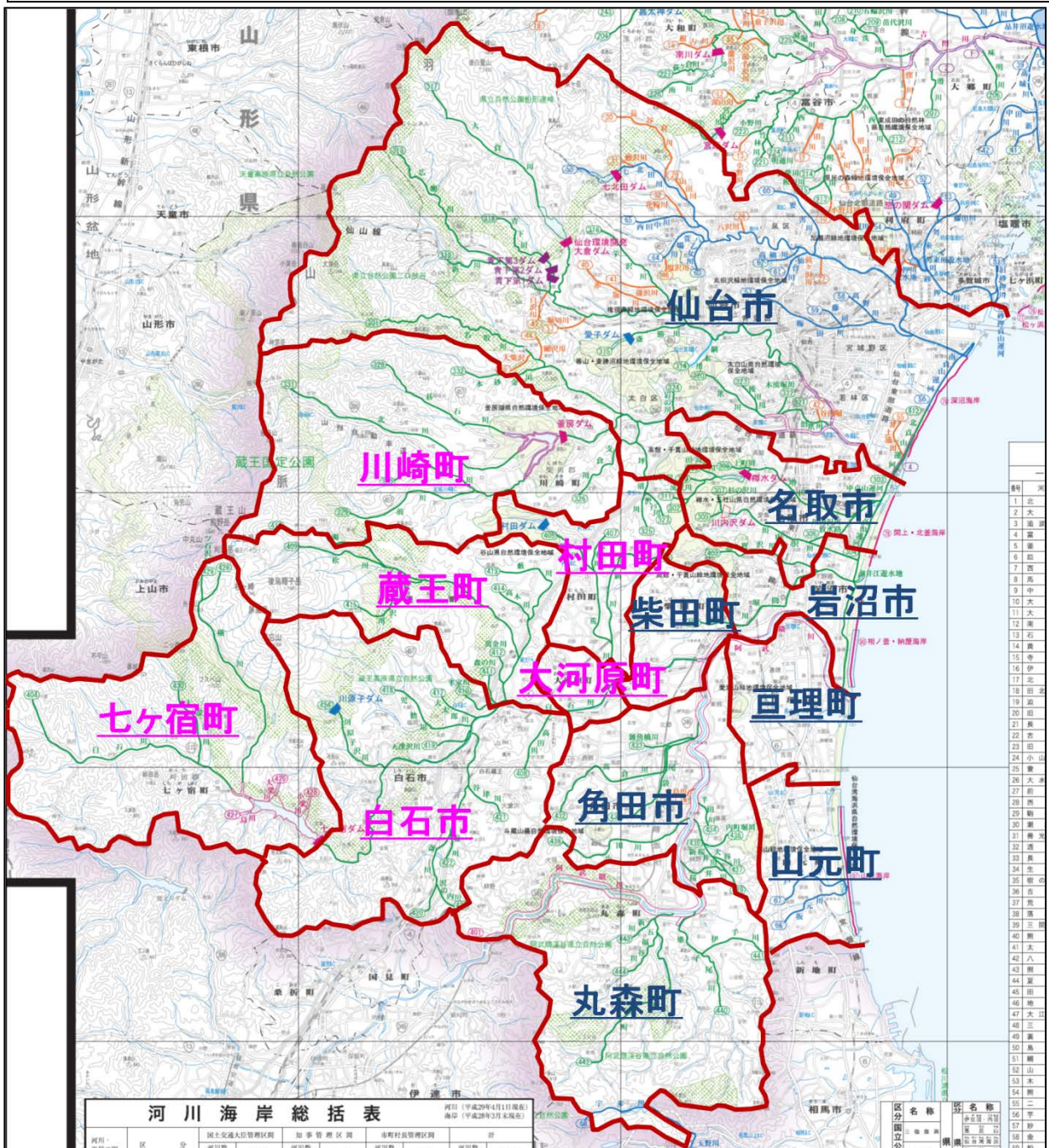
警報・土砂災害警戒情報、その他自主基準で避難勧告等基準等を作成
洪水ハザードマップは未作成であるが、作成検討中
実践的な避難訓練は実施済み、水防体制の強化は未定

2. 名取川・阿武隈川下流等の減災に係る取組方針（H28. 8. 9）と追加市町現在状況

【取組方針 P5～】 3. 名取川・阿武隈川下流等の概要と主な課題

■ 主な課題

- 名取川・阿武隈川下流等からの大規模氾濫時には、多数の住民を的確且つ広域的に避難させる必要がある
 →白石市、蔵王町、大河原町、村田町が、検討の必要性が考えられる。
- 名取川・阿武隈川下流等流域では支川や排水路が多いため、これらの氾濫に対する防災対策をさらに強化する必要がある
 →追加全6市町においても、検討の必要性が考えられる
- 洪水後においては、仙台圏と仙南圏の地域社会、経済活動の一刻も早い回復を図る必要がある
 →追加全6市町においても、検討の必要性が考えられる



5. 減災のための目標

円滑かつ迅速な避難や的確な水防活動の実施、及び氾濫水の排水等の対策を実施するため、各構成員が連携して平成 32 年度までに達成すべき減災目標は以下のとおりとした。

【5 年間で達成すべき目標】

過去の水害の教訓や、平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨により明らかとなった課題等を踏まえ、名取川・阿武隈川下流等で発生しうる大規模水害から仙台都市圏・仙南圏の都市機能等の継続ならびに早期復旧に向けて「逃がす・防ぐ・取り戻す」ことにより、氾濫被害の最小化を目指す。

- 逃がす・・・・・・・・ 流域住民が主体的に水害リスクを把握し、避難につながる、住民目線のソフト対策が必要
- 防ぐ・・・・・・・・ 地域の水防力向上を図り、氾濫被害の防止や軽減、堤防決壊を少しでも遅らせ避難のための時間を稼ぐことが必要
- 取り戻す・・・・・・ 大規模な浸水が長期間に及んだ場合に、1 日でも早く日常生活を取り戻すための対応が必要

【目標達成に向けた 3 本柱】

上記目標の達成に向け、洪水氾濫を未然に防ぐ対策及び危機管理型のハード対策に加え、名取川・阿武隈川下流において、以下の項目を 3 本柱とした取り組みを実施する。

① 住民の主体的で安全な避難行動を促す

日頃からのリスクコミュニケーションの推進

② 発災時に人命と財産を守る水防活動の強化

③ 一刻も早く日常生活を取り戻すための排水活動の強化